

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

「相対主義」という言葉があります。これは「絶対的な正しさではなく、どのような立場もそれなりに正しい」と主張する考えのことです。(1) **イ**、あなたの友達のA君が「ピーマンはまずい」と主張したとします。この時、(2) **ア** あなたが「ピーマンはおいしい」と考えていたとしても、A君の立場も認める。これが「相対主義」です。(3) **オ**、「ピーマンはまずい」という立場も正しく、「ピーマンはおいしい」という立場も正しいとすることが「相対主義」なのです。現代は交通機関やインターネットも発達し、世界中で様々な文化や異なった価値観を持った人同士が接し合う時代です。今後は(4) **ウ** 「相対主義」が大切なものになっていくことでしょう。(5) **エ** 「相対主義」には少々厄介な問題が伴います。それは「どのような立場も正しい」という考えはどこまで認めるべきかという問題です。こんな場合はどうでしょうか。B国が自分達の正義を信じて、隣国であるC国に攻撃を仕掛けてたくさんの人々の命が奪われたとします。こういった場合であっても、私たちは「相対主義」に立って「B国の立場も正しい」と言うべきなのでしょうか。これは大変難しい問題です。

- ア たとえ イ たとえ ウ ますます エ その一方で オ 言い換えれば
- (1) **イ** (例をあげる) (2) **ア** (「たとえ」以下のことが条件でもそれに関係なく成立することを表す)
- (3) **オ** (言い換えて説明) (4) **ウ** (程度が激しくなる)
- (5) **エ** (もう一つの側面について)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～クから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

昔々の中国にこんなお話があります。景公という王様が馬を所有していました。(6) **カ** ある時、馬の飼育係が誤って王様の馬を死なせてしまいました。(7) **ク** 怒った王様は自ら武器を手にして、飼育係を殺そうとしました。いくら王様であっても、このような理



由で人を殺してしまうのはひどい話ですね。この時、王様にお仕えしていた臣下の一人である晏子あんにしという人は「どうせならこいつに罪をよく解わからせた上で私が処刑しよけいしましょう」と述べて、武器を手にして飼育係にこう言い放ちました。「お前のせいで『景公はたかが馬程度ていどのことで人を殺すような王様だ』という悪評ひょうが立つのだぞ、飼育係よ、お前は罪深いやつだ」と。この言葉を聞いた王様は我われに返って自分の行為いの愚おろかかしさに気づいて処刑をやめたそうです。でも、もしも晏子が王様を直接たしなめるようなことをしていたら晏子も一緒に処刑されていたかもしれません。

(8) ケ、冷静な判断力はんだんを失っている人に面と向かって正論ちろんを言ってもなかなか聞き入れてもらえないものだからです。アメリカ出身の作家であるデール・カーネギー氏も一九三七年に発売された著書『人を動かす』の中で「人は押し付けられた意見より自分で思いついた意見を大切にします。暗示じを与えるだけで、結論は相手に出させるのがよい」との旨むねを述べています。

(9) コ これは古代中国や20世紀のアメリカだけでなく、現代の日本社会においても役立つ考え方であることは言うまでもありません。

(10) キ 人間の普遍的性質ふべんと言ってもよいでしょう。

カ ところが キ いわば ク そこで ケ なぜなら コ もちろん

(6) カ (期待と逆の内容)

(7) ク (続いて起こったこと)

(8) ケ (理由の説明)

(9) コ (当然のこと)

(10) キ (言い換え)